

滋賀県の地震

令和 8 年(2026 年)9 月

目 次

1 滋賀県の地震活動

(1)震央分布図	-----	1
(2)概況	-----	1
(3)断面図	-----	2
(4)滋賀県で震度1以上を観測した地震の表	-----	3
(5)滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図	-----	3

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動

(1)震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図	-----	4
(2)概況	-----	4

3 地震一口メモ

滋賀県とその周辺の活断層について ～琵琶湖西岸断層帯～	---	5
-----------------------------	-----	---

「滋賀県の地震」は彦根地方気象台における地震業務の一環として、県下の皆様に県内の地震活動状況をお知らせするとともに、防災知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的とし、毎月刊行しています。

「滋賀県の地震」は上記目次で構成し、適宜地震活動把握のための解説資料や用語解説等を掲載します。

本資料に関する問い合わせは「彦根地方気象台（電話 0749-22-6142）」にお願いします。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。

また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

滋賀県内の震度情報発表地点は彦根地方気象台ホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/hikone/seismo/seismo.html>

本資料の震源要素及び震度データは、後日再調査の上修正されることがあります。

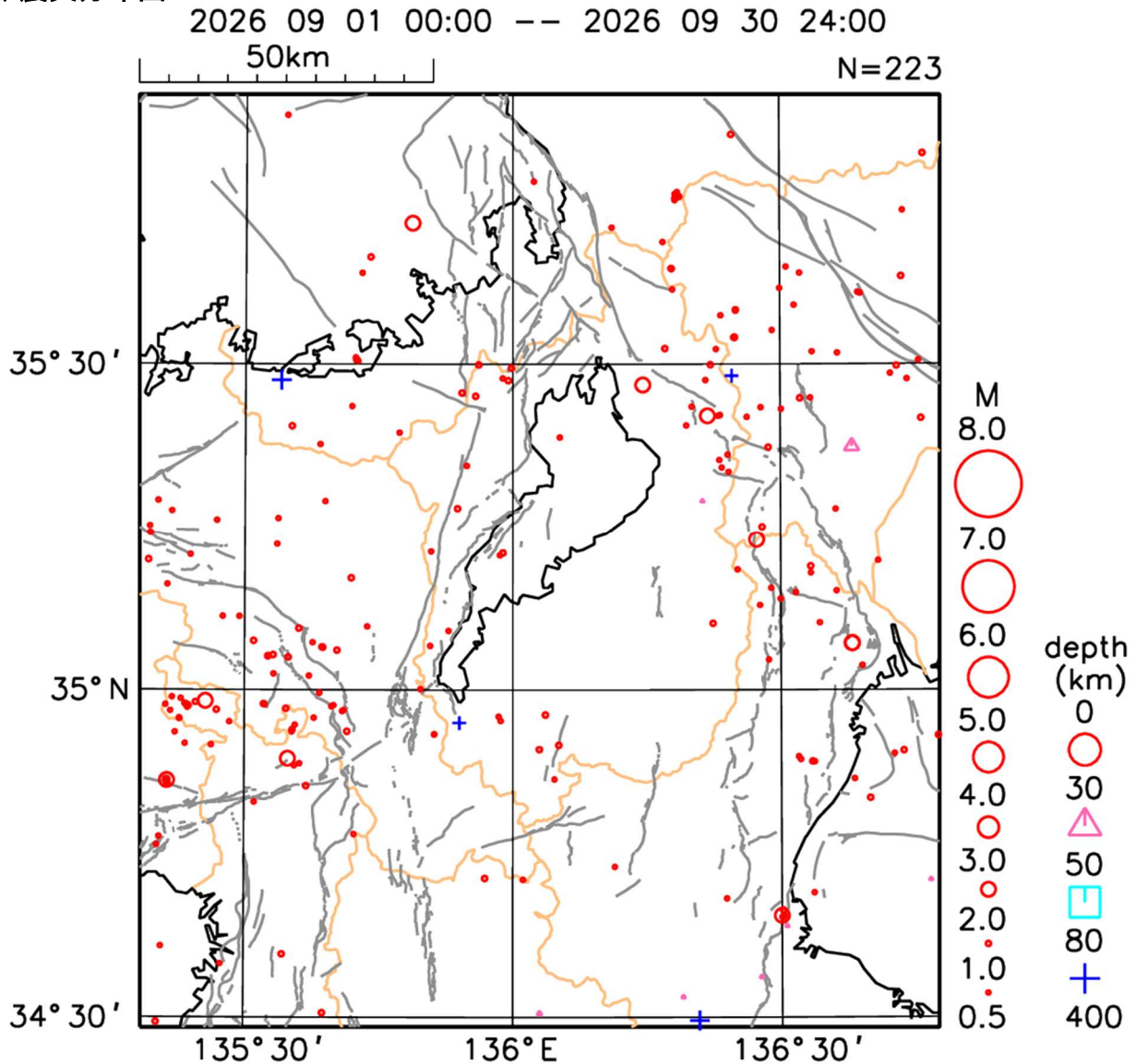
全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。以下のアドレス「地震・津波・火山」からお知りになりたい項目をクリックしてください。

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>

彦根地方気象台

1 滋賀県の地震活動(令和 8 年 9 月)

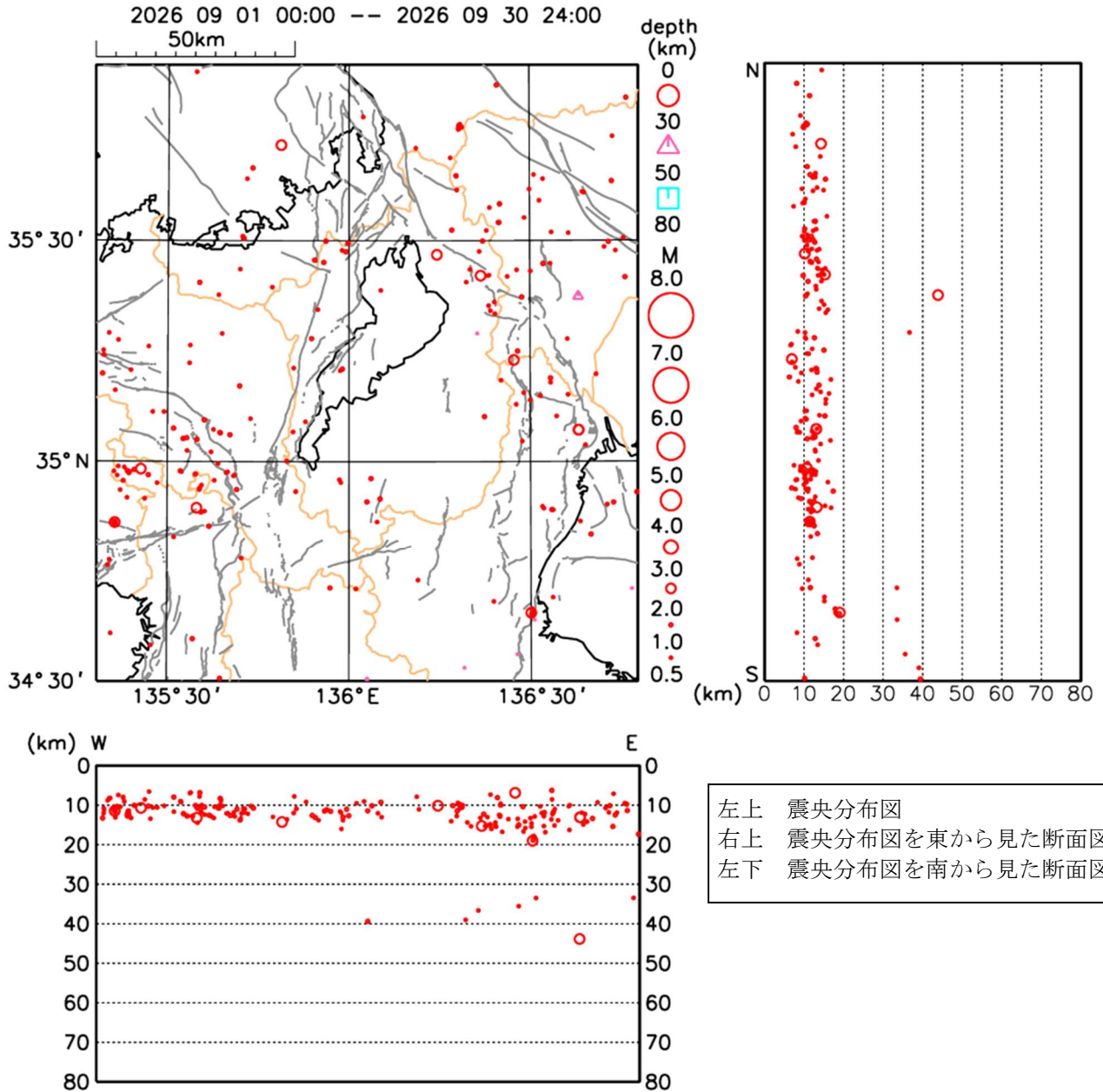
(1) 震央分布図



(2) 概況

9月に震央分布図の範囲内における M2.0 以上の地震は 15 回（前月 12 回）でした。滋賀県内で震度 1 以上の揺れを観測した地震はありませんでした（前月 2 回）。

(3)断面図(深さ 80km までの地震)



【解説】

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は主として沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

(4) 滋賀県で震度 1 以上を観測した地震の表

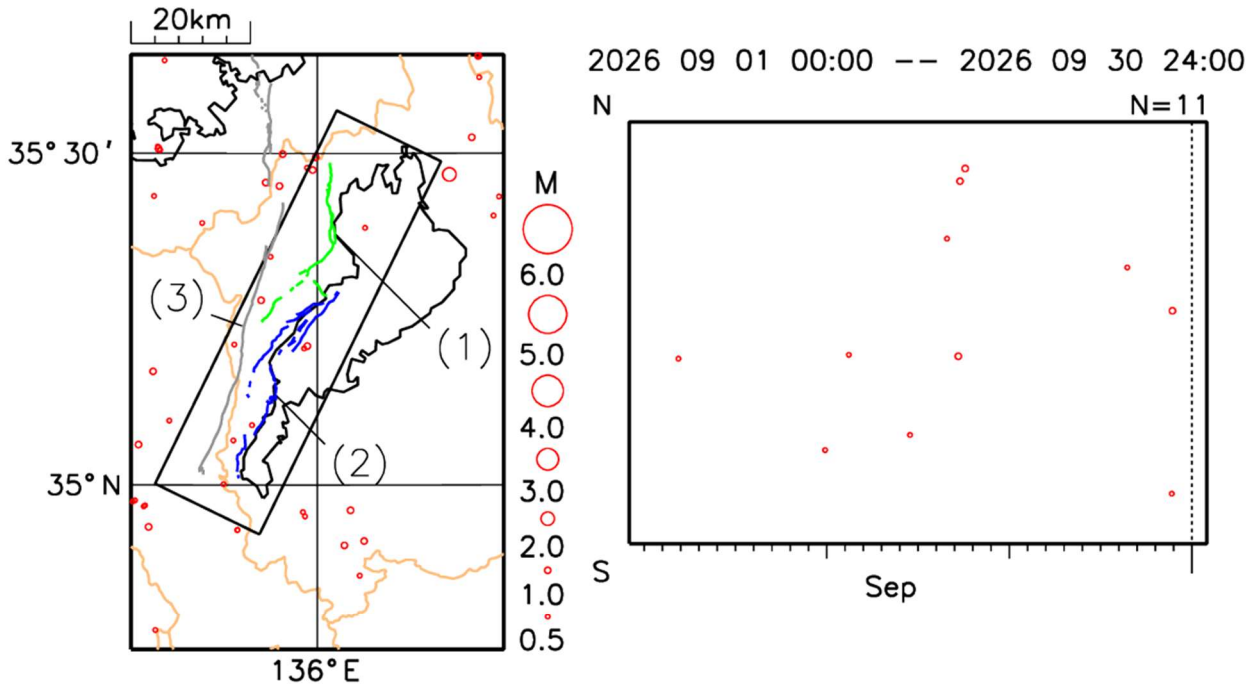
9 月に滋賀県内で震度 1 以上の揺れを観測した地震はありませんでした。

(5) 滋賀県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図

9 月に滋賀県内で震度 1 以上の揺れを観測した地震はありませんでした。

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動(令和 8 年 9 月)

(1) 震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図(深さ 30km までの地震)



(上) 震央分布図

深さ 30km 以浅の地震を表示。断層帯に沿った矩形領域内の地震の活動経過を右に表示。

図中の太線は、断層帯の概略位置。

- (1) 琵琶湖西岸断層帯北部区間
- (2) 琵琶湖西岸断層帯南部区間
- (3) 三方断層帯・花折断層帯

(右上) 時空間分布図

震央分布図の矩形領域内の地震を南北の軸(縦軸)に投影し、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

(右下) 地震活動経過図(規模別)

震央分布図の矩形領域内の地震について、縦軸にマグニチュード、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

琵琶湖西岸断層帯について

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市マキノ町石庭(いしば)から大津市三井寺(みいでら)町付近に至る断層帯です。全体として長さは約 55km と推定され、北北東-南南西方向に延びており、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

琵琶湖西岸断層帯は、北部区間と南部区間の 2 つの区間に分かれて活動すると推定されますが、断層帯全体が 1 つの区間として同時に活動する可能性もあります。

琵琶湖西岸断層帯北部区間では、全体が 1 つの区間として活動する場合、M7.3 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内の発生確率は 3~14% と推定されます。

琵琶湖西岸断層帯南部区間では、全体が 1 つの区間として活動する場合、M7.4 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内の発生確率はほぼ 0% と推定されます。

(地震調査研究推進本部による。ただし、地震発生確率の算定基準日は 2026 年 1 月 1 日。)

(2) 概況

9 月に震央分布図中の矩形領域内で観測された M2.0 以上の地震は 0 回(前月 1 回)で、同領域内の地震で震度 1 以上の揺れは観測されませんでした。

3 地震一口メモ

滋賀県とその周辺の活断層について ～琵琶湖西岸断層帯～

滋賀県とその周辺の活断層について、今回は琵琶湖西岸断層帯について紹介します。（地震調査研究推進本部による評価（令和8年8月28日公表）を紹介します。）

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市マキノ町石庭（いしば）から大津市三井寺（みいでら）町付近に至る断層帯で、北北東－南南西方向に延びています。断層帯全体としての長さは約55kmと推定されます。過去の活動時期の違いから、北部区間と南部区間に区分されています。北部区間と南部区間のいずれも断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です（図1、図2）。

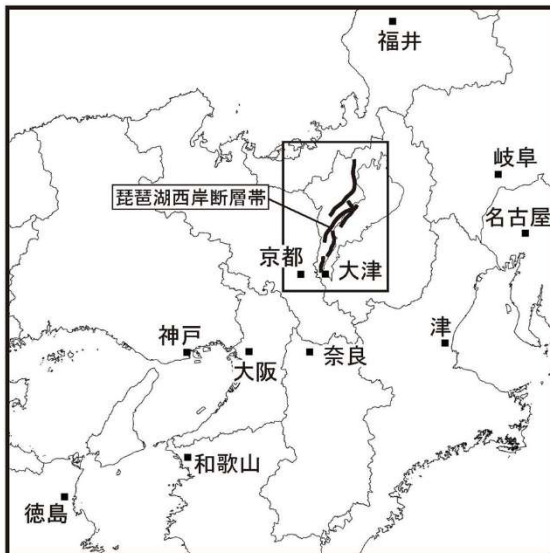


図1 琵琶湖西岸断層帯の概略位置図
（長方形は図2の範囲）

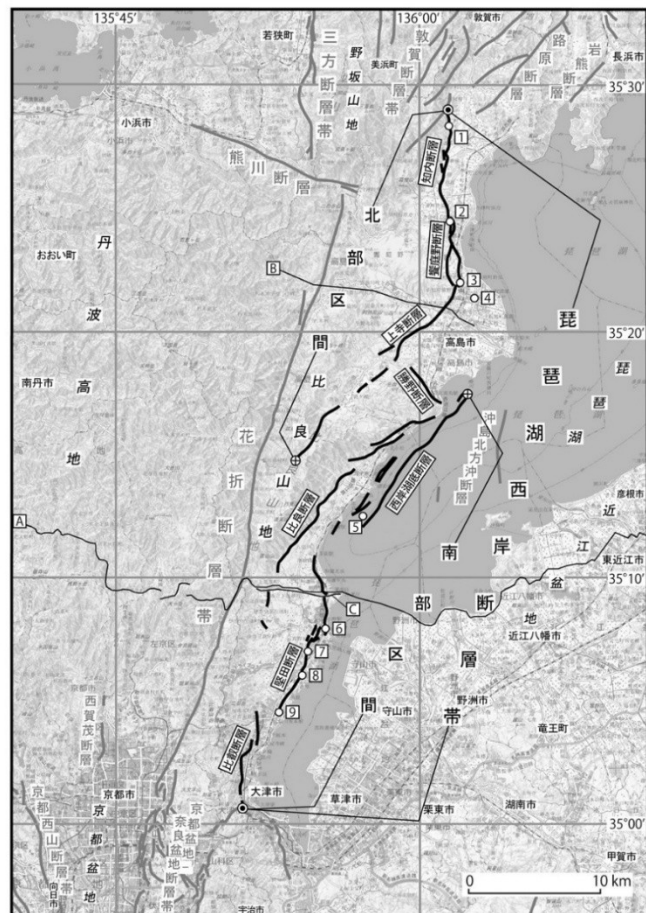


図2 琵琶湖西岸断層帯の位置と主な調査地点

- 1：石庭地点 2：弘川地点 3：饗庭地点 4：針江地点 5：比良沖地点
6：真野地点 7：本堅田地点 8：衣川地点 9：比叡辻地点
●：断層帯の北端・南端 ⊕：断層帯北部区間の南端・南部区間の北端

測線A・B・C：反射法弾性波探査測線

基図は国土地理院発行数値地図 200000「岐阜」、「名古屋」、「宮津」、「京都及大阪」を使用。

出典：「琵琶湖西岸断層帯の長期評価（一部改訂）」（地震調査研究推進本部）
(https://www.jishin.go.jp/main/chousa/26aug_chi_kinki/kinki_24_biwakoseigan.pdf)

断層帯の過去の活動

北部区間の最新活動時期は約2千8百年前以後、約2千5百年前以前であった可能性があり、その際には断層の西側が東側に対して相対的に3－5m程度隆起した可能性があります。

南部区間の最新活動時期は1185年の地震であった可能性があり、その際には断層の西側が東側に対して相対的に6－7m程度隆起した可能性があります。

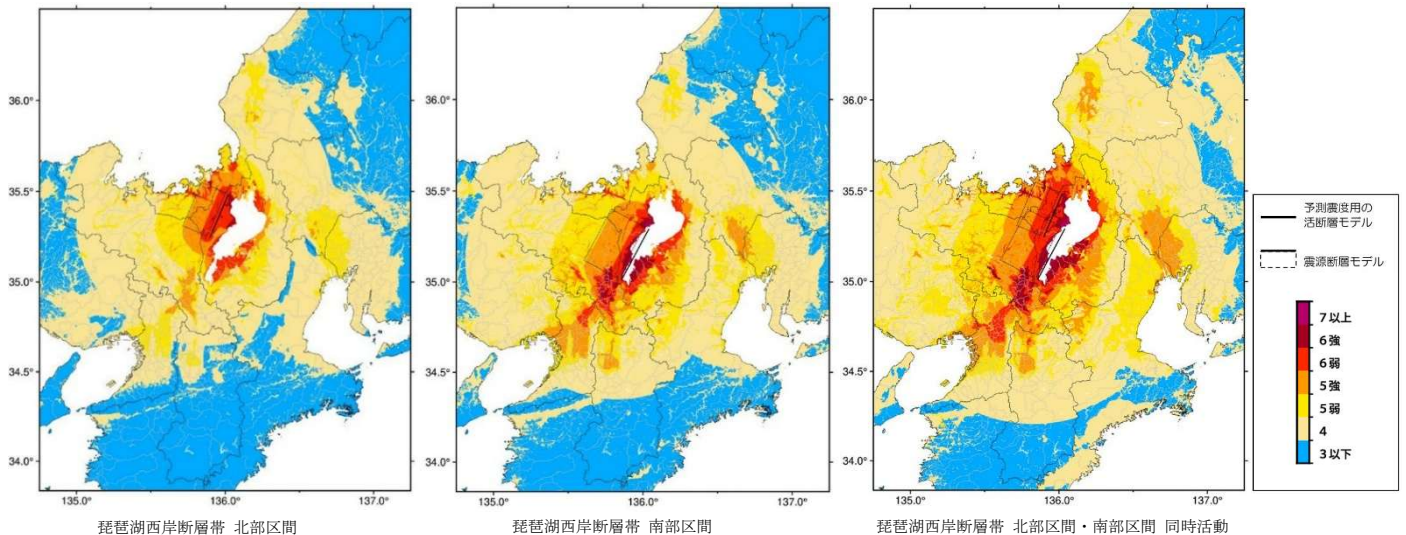


図3 予測震度分布（簡便法）

強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

出典：「近畿地域の活断層の長期評価（第一版）」で評価対象となった活断層で発生する地震の予測震度分布（簡便法計算結果）（地震調査研究推進本部）
https://www.jishin.go.jp/main/kyoshindo/yosokushindo/20260828_kinki_shindo.pdf

断層帯の将来の活動

北部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模はマグニチュード(M)7.3 程度になる可能性があります。今後 30 年以内の地震発生確率は3%～14%で、S*ランク※¹に属します。過去の活動に関する信頼できるデータの充足度が低く、これを用いて求めた発生確率等の値の信頼度はやや低いことに注意する必要がありますが、我が国の主な活断層の中では地震発生確率が高いグループに属することになります。

南部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模はM7.4 程度になる可能性があります。今後 30 年以内の地震発生確率は、ほぼ0%で、Zランクに属します（地震が起こらないという意味ではありません。活断層が存在すること自体、当該地域で大きな地震が発生する可能性を示しています）。

琵琶湖西岸断層帯は、北部区間と南部区間の2つの区間に分かれて活動すると推定されますが、断層帯全体が1つの区間として同時に活動する可能性もあります。北部区間と南部区間が一度に活動した場合は、M7.7 程度の規模の地震になる可能性があります。断層帯全体が同時に活動する場合の確率は、南部区間が単独で活動する場合の確率を超えないものと考えられます。

図3は、上記のような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

※1：活断層における今後 30 年以内の地震発生確率が3%以上を「Sランク」、0.1～3%未満を「Aランク」、0.1%未満を「Zランク」、不明（過去の地震データが少ないため、確率の評価が困難）を「Xランク」と表記している。地震後経過率※²が0.7 以上である活断層については、ランクに「*」を付記している。Zランクでも、活断層が存在すること自体、当該地域で大きな地震が発生する可能性を示す。

※2：最新活動（地震発生）時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。

地震調査研究推進本部HP「琵琶湖西岸断層帯の長期評価(一部改訂)」

https://www.jishin.go.jp/main/chousa/26aug_chi_kinki/kinki_24_biwakoseigan.pdf

地震調査研究推進本部HP「地震発生確率」について解説します

https://www.jishin.go.jp/resource/column/column_24spr_p06/